

昭和四十七年

日本思想史関係研究文献要目

凡 例

一、本要目には、昭和四十七年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。
一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのを適宜収めた。

一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。

ⅠⅡ部とも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道德教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分列配列した。

単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。

一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史学研究室所属の助手・大学院学生があたった。

一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時日の間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

I 単行本目録

総 雑

日本の原像	上田 正昭	文芸春秋社
日本人と日本文化	司馬 遼太郎 ドナルド・キーン	中央公論社
「やまとだまし」の文化史	斎藤 正二	講談社
日本の思想	小松 撰郎	法律文化社
「名」と「恥」の文化	森 三樹三郎	講談社
日本史における価値論の系譜	笠原 一男	評論社
日本の「道」	林屋辰三郎他編	講談社
わたしの日本誌	山田 宗睦	れんが書房
桃太郎の母	石田 英一郎	講談社
日本の憑きもの	吉田 禎吾	中央公論社
日本の憑きもの	石塚 尊俊	未來社
日本文化技術史	藤田 豊	明玄書房
神と祭り日本人	牧田 茂	講談社
日本人の生死観	宗教思想研究会編	大蔵出版
神ごとの日本人	和歌 森太郎	弘文社
日本人の知恵の構造	樋口 清之	講談社
日本文化の構造	梅田 道忠 梅田 道太郎	講談社
日本文学の自然観	西田 正好	創元社
日本文化の表情	梅田 道忠 多田 道太郎	講談社

日本文化と世界

儀礼の構造

日本庶民教育史

世俗化の宗教

祖先崇拜の宗教学的的研究

日本宗教制度史—中世扁近世扁

地方史の思想

日本史学史

古 代

神々の誕生

国生み神話

出雲神話

出雲神話の原像

神々の体系

日鮮神話伝説の研究

日本古代思想

古代人と夢

日本国家の起源

古代日本人の世界

日本古代の神祇と道教

日本古代の国家と仏教

多田 道忠	梅田 道太郎	講談社
田丸 徳善	村岡 空編	佼成出版社
宮田 登	石川 謙	玉川大学出版部
井門 富士天	井門 富士天	日本基督教団出版局
諸戸 素純	梅田 義彦	山喜房仏書林
芳賀 登	伊豆 公夫	東宣出版
湯浅 泰雄	湯浅 泰雄	日本放送出版協会
大林 太良他編	水野 祐	校倉書房
井上 実	井上 実	八雲書房
三品 彰英	三品 彰英	三省堂
原田 敏明	原田 敏明	中央公論社
西郷 信綱	西郷 信綱	中央公論社
石田 英一郎編	石田 英一郎編	平凡社
田中 元	田中 元	角川書店
下出 積与	下出 積与	吉川弘文館
井上 光貞	井上 光貞	吉川弘文館

上代の浄土教

太子信仰

隠された十字架

中世

本邦中世までにおける孟子受容史の研究

中世文学の研究

武家の家訓

正法眼蔵の研究

親鸞の世界正統

親鸞とその弟子

道元とその弟子

日蓮と法華経

日蓮信仰の歴史

日蓮の生涯と思想

修験道史研究

修験道と民俗

日本中世史論集

近世

伝統的革新思想論

徳川合理思想の系譜

近世日本政治思想の成立

近世の流行神

大野達之助

林幹弥

梅原猛

井上順理

秋山虔編

吉田豊編

吉田紹欽

金子大栄

石田瑞磨

今板愛真

田村芳郎編

宮崎英修編

和歌森太郎

戸川安章

福尾教授退官記念事業会編

市井三郎

布川清司

源了円

今中寛司

宮田登

吉川弘文館

評論社

新潮社

風間書房

東京大学出版会

徳間書店

創文社

徳間書店

毎日新聞社

毎日新聞社

春秋社

平凡社

岩崎美術社

吉川弘文館

平凡社

中央公論社

創文社

評論社

橋守部

本居宣長

本居宣長の世界

国学者伝記集成

国学政治思想の研究

鈴木雅之研究

頼山陽と明治維新

日蓮宗不受不施派の研究

金光大神の生涯

日本近世文学の成立

幕末・維新期の文学

日本近代化の思想

日本近代化の研究 上・下

近代日本道徳思想史研究

近代民衆宗教史の研究

近代社会と日蓮主義

日本近代と日蓮主義

近代日本と反近代

文明開化

日本近代美術史論

岡倉天心

明治教育世論の研究上下

鈴木暎一

芳賀登

野崎守英

大川茂編

南茂樹編

松本三之介

伊藤至郎

徳田進

影山堯雄編

村上重良

松田修

前田愛

鹿野正直

高橋幸八郎

山田洗

村上重良

戸頃重基

田村芳郎編

宮崎英修編

久野昭

高橋昌郎

高階秀爾

宮川寅雄

本山幸彦編

吉川弘文館

清水書院

名著名刊行会

未來社

青木書店

芦書房

平楽寺書店

講談社

法政大学出版局

研究社

東大出版会

未來社

法蔵館

評論社

春秋社

以文社

評論社

講談社

東大出版会

福村出版

福村出版

福村出版

福村出版

福村出版

II 雑誌・紀要論文目録

総 雑

△一般▽

日本近代教育思想の研究	安藤五郎	学芸図書	
明治国家主義思想史研究	岩井忠熊	青木書店	
幸徳秋水と片山潜	大河内一男	講談社	
日本文学の近代と反近代	三好行雄	東大出版会	
日本の近代文学	〃	塙書房	普遍的思想史の構造(1)(2)(3)
中江兆民と植木枝盛	松永昌三	清水書院	思想史の想像力と想像力の思想史
続北村透谷研究	平岡敏夫	有精堂出版	対外交渉と外来文化の摂取(講演)
田中正造と近代思想	中込道夫	現代評論社	周辺文明としての日本文明とロシア文明
社会運動とキリスト教	工藤英一	日本YMCA同盟出版部	日本文化の二重構造
革命的ロマン主義者の群れ	大久保典夫	三省堂	異質文明の接触
津田左右吉の思想史的研究	家永三郎	岩波書店	風土と日本人の性格
大正期の急進的自由主義	井上徹 <small>清編</small>	東洋経済新報社	「むら」意識についての試論
北一輝編	松本健一	現代評論社	日本儒学史体系への序説
橘孝三郎	松沢哲成	三一書房	日本思想の形成とのかかわりに於て
昭和思想史への証言	毎日新聞社編		わが国における礼の思想と、それが教育に及ぼした影響について
柳田国男論序説	後藤総一郎	伝統と現代社	日本文化と禅
柳田国男	〃 編	三一書房	日本における道教研究
柳田国男	牧田茂	中央公論社	竹田聰洲著「民俗仏教と祖先信仰」
共同研究日本占領	思想の科学研究会編	徳間書店	竹田聰洲著「民族仏教と祖先信仰」
柏木義円集	柏木義円編	末来社	
	伊谷隆一編		
			中村元
			坂部忠
			森克己
			山本新
			佐伯彰一
			丸山国雄
			中村菊男
			倉田信靖
			赤羽英市
			山田無文
			酒井忠夫
			横田健一
			萩原龍夫
			中村元
			八・九
			哲学二二
			皇学館論叢五
			人文学研究所報(神奈川大)六
			自由一四
			山梨大学教育学部研究報告二〇
			法学研究(慶大)四五―三
			東洋研究二六
			信州大学教育学部紀要二七
			花園大学研究紀要三
			東方宗教四〇
			季刊人類学三一
			史学雑誌八一―

「解放」までの朝鮮キリスト
教史研究

―日本キリスト教史と比較
して―4―

小杉 尙次

朝鮮研究一一七

陰陽学と陰陽と道
―その系譜と概念のために―

岩 佐 貫 三

東洋学研究五

日本人の宗教生活と現世利益

宮 家 準

日本仏教三四

現世利益 ―その論理と心理―

井 門 富 二 夫

日本仏教三四

日本人の精神的風土と宗教

堀 一 郎

国際基督教大学
学報(アジア文
化研究)六

キリスト教の土着化
―「無」に於ける出会いに
ついて―

粕 谷 甲 一

理想四七〇

日本の仏教思想

藤 本 智 董

福岡大学人文論
叢四―三―

日本民族性と仏教の発展
―2―

鈴 木 大 拙

仏教学セミナー
一五

同右―3―

〃

仏教セミナー
一六

仏教における智慧の構造とそ
の土着性

白 田 貴 郎

理想四七〇

二荒山の歴史

近 藤 喜 博

神道宗教六九

猿投神社研究序説

太 田 正 弘

神道宗教六七

伊那本学神社の創建とその歴
史的意義

小 林 健 三

神道宗教六七

―附―平田先生百年祭記念
―伊那谷平田学史料展観目
録―上―

小 林 健 三

神道宗教六七

神学と人間学とのあいだ
―浄土教的基盤におけるそ
の問題解決の一方途―

河 波 昌

東洋学研究六

19世紀ヨーロッパ学者の日本
神話研究

大 林 太 良

一橋論叢六八―
三―

ウマレキヨマル思想

宮 田 登

理想四七〇

民衆精神史としての民話

益 田 勝 実

日本児童文学
一九―二―

日本文学史序説―1―
―1―
日本文学の特徴について

加 藤 周 一

朝日ジャーナル
一五―一―

「家」をめぐるイデオロギー
の過去と現在(特集・思想と
しての天皇制)

磯 野 誠 一

科学と思想七

天皇および天皇制度

中 村 菊 男

法学研究(慶大)
四五―一〇―

ナショナルリズムと日本研究
―フィリピンの場合―

都 留 春 夫

国際基督教大学
学報(教育研究)
一六

中国の恥と日本の恥

湯 浅 泰 雄

実存主義五九

土着中国に対するこの土着日
本

溝 口 雄 三

理想四七〇

中国人のなかの明治維新
―戴季陶「日本論」―

萩 原 延 寿

文芸春秋五〇―
一一―

古 代

守 本 順 一 郎

科学と思想五

日本における古代的思维の成
立―下―

寺 村 光 晴

和洋国文研究八

「たま」の系譜―古代玉概念
の再検討

芝 熾

京都女子大学人
文論叢九

古代における日本人の思考
―固有信仰の起源をめぐっ
て―二

芝 熾

京都女子大学人
文論叢九

日本民族宗教思想始源の追跡
徴考
井上吉次郎
追手門学院大学
文学部紀要六

アニミズム再考—あるいは、
続・カミの住み家
岩田慶治
季刊人類学三一
三

鎮魂祭について—古伝を中心
として
川出清彦
神道学七五

神名に関する覚書—ヌシ神に
ついて—二—
肥田野昌之
独協大学教養諸
学研究六

天つ神と国つ神
広畑輔雄
史林五五—五

古代における「アガキミ」
「アガオホキミ」使用に關す
る思想的考察
橋重考
文化史学二七

いわゆる神勅文の成立と仏教
田村円澄
史林五四—二

古代除災儀礼の諸相—日本書
紀・続日本紀にみる祈雨と禱
疫の儀礼を中心として
岡田重精
皇学館大学紀要
一〇

日本書紀に見える仏典—金光
明紀
青木紀元
福井大学教育学
部紀要(一)、人文
科学(二)、(三)、(国
語学・国文学)

三経義疏雑感(公開講演)
井上光貞
国学院大学日本
文化研究所紀要
二九

勝鬘經義疏の本義について
金治勇
印度学仏教学研
究二—一—一

「上宮聖徳法王帝説」の成
立年代について
久保田喜一
芸林三三—六

日本古代仏教における旧訳経
典と新訳経典
田村円澄
古代学一八

天武朝の仏教の一考察
日野昭
竜谷大学仏教文
化研究所紀要一

風水思想における四神につい
て「高松塚古墳にふれつつ」
牧尾良海
東方宗教四〇

住吉大社神代記について
坂本太郎
国史学八九

上代における式年遷宮
所功
神道史研究二〇
—五・六—

神宮式年遷宮制の創始
岡田米夫
神道史研究二〇
—五・六—

奈良時代の禪師について
舟ヶ崎正孝
大阪教育大学紀
要二〇

「靈異記」の法華經
川口恵隆
印度学仏教学研
究二〇(二)

靈異記による仏教地方普及の
考察
橋本克彦
中央大学文学部
紀要六三

伝教大師最澄と円澄
仲尾俊博
密教学研究三

伝教大師における国家と福祉
—「守護国界章」の思想的基
盤について
橋本芳契
印度学仏教学研
究二〇(二)

平安仏教と不空表制集
竹田暢典
大正大学紀要五
七

弘法大師空海と仏事法会
野又俊教
智山学報一九

弘法大師の密教思想と日本仏
教(講演)
那須政隆
密教学研究四

空海伏見稱荷大社の樹を伐る
西田長男
日本歴史二八七

伏見稻荷大社と弘法大師空海
と「澄心寺縁起」を中心と
して

西田長男

神道宗教六五・
六六

三教指帰と五輪九字秘釈の道
教思想

吉岡豊義

大正大学研究紀
要五七

香取神宮祭神考

菱沼勇

神道史研究二〇
―四

源信における密教受容につ
いて

和田悌一

印度学仏教学研
究二〇(三三)

往生要集における仏性説の一
考察

福原蓮月

印度学仏教学研
究二一―一

往生要集の思想とその受容

伊藤真徹

人文学論集(仏
教大)六

逆修信仰の史的研究

川勝政太郎

大手前女子大学
論集六

平安朝に於ける長谷神仰

遠日出典

芸林二三―六

平安時代における女性の信仰
についての一考察

早坂博

東北福祉大学論
叢一一

古事記における歴史と文学

金井清一

上代文学三〇

古代伝承における真実と虚構
―古事記の所伝を中心とし
て―

武谷久雄

上代文学三〇

宇氣比神話の諸様相

大林太良

宗教研究四五―
四

八岐の大蛇退治の神話の構造

武谷久雄

日本大学理工学
部一般教育教室
彙報一三

日本書紀と聖徳太子伝暦

坂本太郎

南都仏教二九

九州諸国風土記と記紀―原風
土記の検討

高藤昇

国学院雑誌七三
―六

歌枕意識の変貌とその定着

金沢規雄

文芸研究七一

水底の歌「柿本人麿論」―三―
(日本精神の系譜―九―)

梅原孟

すばる一〇

山上憶良における中国的志向

石田公道

北海道教育大学
紀要(一A人文
科学)二三―一

自然観の変遷と文学の成立
―万葉集―の挽歌をめぐって

広川勝美

人文学一二二

平安朝初期文学史を基底とす
るもの―宣命体とのかかわり
あい

原国人

国学院雑誌七三
―一二

枕草子と仏教信仰

池田正俊

和洋国文研究四
一―五

王朝文芸の宗教的史観―三―
源氏物語と平家物語の比較―
二―

村田昇

国文学研究八

今昔物語集卷一―卷三の性格
とその製作意図について

渥美かをる

愛知県立大学説
林二〇

永長元年の旧業騒動―院政初
期の文化と政治

井上満郎

芸能史研究三六

帝位継承に関する古代の条約
論争について―古事記、日本
書紀による

桜井光堂

駒沢大学法学部
研究紀要三〇

記紀構成原理の一つとしての
「聖君主」観

河野勝行

歴史学研究三八

律令と陰陽道

滝川政次郎

東方宗教三五

大宝神祇令の復原と二・三の問題
福島好和
ヒストリア五九

神祇令の一・二の問題
鎌田純一
皇学館論叢五—四

林屋辰三郎「日本の古代文化」
町田嶺志
日本史研究一二八

松前健著「日本神話の形成」
「日本神話と古代生活」
横田健一
民族学研究三七—二

長沼賢海著「聖徳太子論攷」
近世初期以前十七条憲法諸本
解題並校勘記
青木義憲
日本歴史二九〇
阿部隆一
斯道文庫論集一〇

北山茂夫著「大伴家持」
小野寛
国語と国文学四九—七

勝又俊教著「密教の日本的展開」
仲尾俊博
密教学研究三

重松信弘著「源氏物語の思想」
柳井滋
国語と国文学四九—七

笠井昌昭著「信貴山緑起絵巻の研究」
小川光暢
文化史学二七

中世

吾妻鏡の本文批判のための覚書—吾妻鏡と明月記との関係
益田宗
東京大学史料編纂所報六

中世日本人の死生観—徒然草を中心
大野順一
国文学解釈と鑑賞三七—一三

中世日本人の終末観
伊藤博之
〃

中世日本人の美と思想
石田吉貞
〃

中世日本人の美意識
久保田淳
〃

閑居と漂泊—隠遁の文化的構造
桜井好朗
〃

△慈悲—愛△の道(中世的思惟の特徴—七・八—)
中村元
心二五—一〇・一

鎌倉室町時代の武士の文化
豊田武
〇 日刊文化財一—

戦国秋田武将の精神構造—軍記・書状の分析を中心に
加藤民夫
秋田史学一九

金沢文庫の漢籍—文庫外流出漢籍目録(五三三の解題)
阿部隆一
金沢文庫研究一八—八

源空の浄土開宗と門下の分流
栗原行信
大谷大学研究年報二四

浄土教における非神話化の問題
藤吉慈海
親鸞教学二〇

浄土教における「未来」の問題
本多弘之
印度学仏教学研究二—一

浄土宗の安心起行論
小林尚英
浄土宗学研究六

室町時代における浄土宗の特色—とくに一条派を中心として
玉山成広
印度学仏教学研究二—一

法然の伝記について—付・親鸞との関連
福井康順
二〇—二〃

法然上人の相承論
山本仏骨
真宗学四五・四六

法然における罪悪の問題
矢田了章
〃

法然の仏土観
浅井成海
〃

法然上人御法語の根本性格—とくに「対話的原理」としての一考察
藤本浄彦
浄土宗学研究六

法然上人の「三昧発得記」について
戸松啓真
智山学報一九

法然浄土教における一向専修の形成について――二一	坪井俊映	印度学仏教学研究二〇―二二	宗祖の三経観―特に隠顯釈によつて	藤原幸章	〃
法然浄土教に説く念仏者の理想像について	〃	浄土宗学研究六	親鸞における仏性観	神戸和麿	真宗研究一七
善人意識から悪人意識へ―法然と親鸞	河田光夫	国文学解釈と鑑賞三七―一三三	親鸞書簡にあらわれた法然上人―1―「義なきを義とす」の教説をめぐつて	嬰本義彦	真宗学四五・四六
法然と親鸞の念仏思想	岡亮二	龍谷大学論集三九八	鎌倉仏教の成立と「教行信証」	赤松俊秀	親鸞教学二一
法然と親鸞―「伝承と己証」の視点から	村上速水	真宗学四五・四六	「教行信証」の仏教思想史上の意義	安藤俊雄	〃
親鸞教学の総合的研究（共同研究）	〃	〃	「教行信証」と「選択集」	稲葉秀賢	〃
親鸞における悪	市川良哉	龍谷大学仏教文化研究所紀要一〇	『教行信証』論考―「権化」と「宿縁」―1―	石田慶和	京都女子大学人文論叢一九
親鸞における横超と金剛心―他力信心の性格	山崎竜明	〃	「教行信証」における真仏	石原斌夫	印度学仏教学研究二一―一一
親鸞教学の基座―「第十八願成就文」をめぐつて	池田勇諦	同朋大学論叢二六	歎異抄における異議に対する態度―二―	扇田幹夫	神戸女学院大学論集一八―二
親鸞の同朋精神	上田義文	〃	親鸞の宗教思想と祖先崇拜	西山光憲	京都女子学園仏教文化研究所研究紀要二
悪の超克―親鸞の宗教的確信	市川良哉	奈良大学紀要一	親鸞聖人の神祇観	嬰本義彦	真宗研究一七
ヴェーバーと親鸞―実践に対する科学と宗教	戸田信正	同朋大学論叢二七	遁世者としての一遍について	石岡信一	東洋学研究五
親鸞における機の問題	吉川正二	甲南女子大学研究紀要八	一遍上人の回心について	石岡信一	印度学仏教学研究二一―一一
親鸞における「行」の研究―大行「出体釈」を中心に	岡亮二	真宗学四五・四六	藤沢道場の創建について―続―	河野憲善	〃
親鸞における念仏と信心	信楽峻磨	〃	日蓮の日本天台史観	浅井円道	二〇―二二
仏性論上から見た親鸞の地位	横超慧日	親鸞教学二一	中世における日蓮教学の展開	茂田井教亨	〃

日蓮上人の仏身観―三―	藤谷大円	二一―一	正法眼蔵に見られる宗観思想とその受容的意義	古坂龍宏	宗学研究一四
日蓮聖人における受持論の一考察	庵谷行亨	〃	中世越後における曹洞禅	田浪竜之	〃
道元論覚書	春日佑芳	防衛大学紀要二三	大燈国師下語の研究	平野宗浄	禅文化研究所紀要四
道元禪師の在宋修学の行程	柴田道賢	宗教学論集五	一休宗純における晦迹の精神	山折哲雄	印度学仏教学研究二一―一
道元における聖と俗―一―	西山広宣	印度学仏教学研究二〇―二	禅者の末法思想	菊藤明道	〃
道元における聖と俗―善惡の問題を中心にして―二―	〃	東北福祉大学論叢一	禅者の念仏観の二、三について	藤原了然	浄土宗学研究六
道元禪師の「現戒」について―性起に関連して―	新野光亮	宗学研究一四	俊仍律師撰「南山宗旨要抄」について	徳田明本	南都仏教二九
道元禪師における引用外典の基礎的研究―二―弘決外典鈔を中心にして	大谷哲夫	〃	日本仏教における善導教学の展開―貞慶・高弁の善導観と親鸞の立場―	普賢晃寿	龍谷大学仏教文化研究所紀要一〇
道元禪における信の意義―序―	中山成二	〃	明恵上人の置文	田井久夫	歴史地理九二―一
道元禪の思惟と表現	菊地良一	国文学解釈と鑑賞三七―一三	明恵の和歌と仏教	山田昭全	国語と国文学五〇―四
道元について―時の問題を中心として	東 専一郎	墨美二一九	叡尊の戒律について	石田端磨	金沢文庫研究一八―五
道元禪と道教	篠原寿雄	東方宗教三三・三四	凝然の仏教の研究序説	小林実玄	印度学仏教学研究二〇―二
不離叢林の思想―道元禪師の求法と教育	遠島満宗	思想の科学二(別冊六)	凝然の戒律思想	平川 彰	南都仏教二八
ヤスパースと道元における「自己」	笠井 貞	理想四七四	常陸三材寺と忍性	和島芳男	金沢文庫研究一八―七
文学としての正法眼蔵―「有時」―「海印三昧」の巻を中心として―二―	丸山嘉信	徳島大学教養部紀要(人文・社会科学)七	日本達磨宗に関する一考察	矢島智津子	印度学仏教学研究二〇―二

捨聖の生死観―三―善惡につ
いて

石岡 信一

〃

触穢思想の中世的構造
―神と天皇と「賤民」と

横井 清

国文学解釈と鑑賞
三七―一三

「悪人」往生・再考
―中世思想史の新側面

池見 澄隆

〃

怨霊から御霊へ
―中世的死霊観の展開

桜井 徳太郎

〃

不浄禁忌と専修念仏
―中世民衆の意識動向

人文学論集（仏
教大）六

鑽仰研究・皇霊の祭祀
―崇徳院の場合

戸田 義雄

神道宗教
六五・六六

称名寺の基礎的研究
―実時阿弥陀堂と称名寺草
創―

納富 常夫

金沢文庫研究紀
要九

中世の人々と祈願の心

外村 久江

日本歌謡研究
一一

百万塔陀羅尼の研究
―百万塔陀羅尼における四
種の陀羅尼の内容について

大沢 忍

神戸女子大学紀
要二

中世南都における郷民祭礼の
基盤
大伝法院領紀伊国山東荘
―莊園をめぐる仏と神

和田 義昭

芸能史研究
三六

「一言芳談」における出家の
あり方

丸山 博正

印度学仏教学研究
究二―一

大和における宮座組織の一形
態
―特に神仏習合的なもの
について

阿部 猛

日本歴史二九〇

戦国思想史の一面―
キリシタンと一向一揆にお
ける死と生

湯浅 泰雄

山梨大学教育学
部研究報告二〇

中世における遷宮

金子 圭助

天文学報
二四―四

両部神道論

大山 公淳

密教学九

石清水放生会と室町幕府
―将軍上卿参向をめぐる

鎌田 純一

神道史研究
二〇―五・六

伊勢神宮の本地

久保田 収

日本歴史二九三

中世文芸の理念―虚無の意志

二木 謙一

国学院大学日本
文化研究所紀要
三〇

外宮神道論
―神道五部書から家行と親
房とへ

安津 素彦

神道宗教
六五・六六

中世文芸の理念―虚無の意志

前田 妙子

日本文芸研究
二四―二・三

中世室生山の思想的発展
―室生流神道に触れながら

遠 日出典

文化史学二七

隠遁と芸能―その一面

桜井 好朗

国語と国文学
五〇―四

唯一神道名法要集の成立期

出村 勝明

神道史研究
二〇―二

堂上歌論におけるまこと

高浜 充

国文学研究八

天神信仰の表現構造
―北野天神緑起成立前後

桜井 好朗

文学四〇―七

定家的妖艶の形成―死美の誕
生―

石田 吉貞

文学四〇―八

中世における神と人

久保田 淳

国文学
一七―一

連歌―良基の意図と達成

藤原 正義

日本文学
二一―七

中世歌謡と仏教
―「田植草紙」の仏教語解
武石 彰夫
日本歌謡研究 一一

大鏡―逸話による歴史記述
松本 久
武蔵野女子大学紀要七

平家物語における人間観
―その宗教的意味について―
館 熙道
宗教研究 四五―四

徒然草の世界
―中世の精神史的景観のなかで―
桜井 好朗
日本文学 二一―四

中世における無欲の思想
―徒然草第二百十七段をめぐって―
西村 稔
園田学園女子論文集七

太平記―鎌倉的なものの終焉
杉本 圭三郎
日本文学 二一―七

太平記と論語
増田 欣
富山大学教育学部紀要(A文科学系)二〇

神道集における説話の形成
―卷四「諏訪大明神五月会事」を中心に―
福田 晃
日本文学 二一―七

五山文学の源流―大休・無学を中心として―
蔭木 英雄
国語国文 四一―七

一休「風流」の意味するもの
岡松 和夫
国語と国文学 五〇―四

中世芸道における人間修行の問題―
―茶の湯における一期一会―
数江 教一
中央大学文学部紀要五六

日記のなかの中世と近世
―七―
熊井 功紘
日本美術工芸 四〇―七

一戦国の明暗「宗長手記」―
熊井 功紘
日本美術工芸 四〇―七

中世末公家日記における闕語について
今泉 淑夫
国語と国文学 五〇―四

百王思想
大森 志郎
日本文学 二一―七

中世における天皇支配権の一考察
―供御人・作手を中心として―
網野 善彦
史学雑誌 八一―八

封建的主従関係成立期の儀礼について
中村 吉治
国学院経済学 二〇―三

儀礼にみる室町幕府の性格
―歳首の御・堀飯を中心として―
国史学 八七

雪村友梅にみる「南北朝」
―時代区分試論のメモとして―
むしやこうじ
日本文学 二一―七

足利学校の教育史的意義
日欧交渉史研究文献目録
―補遺丁乙完―
長野 多美子
教育学雑誌六
松田 毅一
清泉女子大学紀要二〇

近世

幕藩制下における封建・群衆論序説
小沢 栄一
東京学芸大学紀要(社会科学)二四

近世町人の自然観
布川 清司
思想の科学三

邦儒の楚辞研究について
竹治 貞夫
徳島大学学芸紀要(人文科学)二二

受容・拒絶・触発
―日欧文化接触の様態―
尾原 悟
ソフィア 二一―一

幕藩主従制の思想的原理
—公私分離の発展

三宅正彦

日本史研究
一二七

近世儒教をめぐる思想的交錯
—上—

守本順一郎

科学と思想七

江戸文学と珠算—

鈴木久男

国士館大学政経
論叢一七

貝原益軒の児童観

浮須婦紗

学苑三九六

中江藤樹の根本思想—「大学」
と「中庸」を中心に

古川治

甲子園大学紀要
二

中江藤樹に関する一考察
—その思想と妥当性の問題

斎藤太郎

東京農業大学一
般教育學術集報
七

中江藤樹の「中期」の思想

玉懸博之

文化三五—四

「変」の論理—新井白石論

小池喜明

倫理学年報二一

蘆東山「無形録」の成立

—特に室鳩巢との関係につ
いて

水沢澄子

東方学四四

古義堂と懷徳堂

田中佩刀

明治大学教養論
集七五

儒者の姿勢—「六論衍義」を
めぐる徂徠・鳩巢の対立

中村忠行

天理大学学報
二三—五

荻生徂徠の都市政策について

大久保達正

東洋研究二七

沖繩の儒学について—三・四—

塚田清策

信州大学教育学
部紀要
二六・二七

荷田春満の学問の国学的意義

重松信弘

皇学館論叢
五一—六

本居宣長四—四三

小林秀雄

新潮六九・九
七〇・一

本居宣長の思想形成の一視点

安蘇谷正彦

国学院大学日本
文化研究所紀要
三〇

本居宣長の真暦考について

桃裕行

立正史学三六

宣長学の地方浸透

佐野正巳

人文学研究所報
(神奈川大)

大国隆正「和魂」考

南啓治

国学院雑誌
七三・六

士清と宣長—その言語研究の
道

北岡四良

皇学館大学紀要
一〇

「中庸」から見た朱熹と本居
宣長

赤塚忠

東京支那学報
一六

富士谷御杖の言語観

東海林辰夫

語学文学一〇

古刊本の塵劫記

山崎与右衛門

帝京経済学研究
五一—二

徳川時代における実学思想の
展開

源了円

日本女子大学紀
要(文学部)二一

開物思想の啓蒙性について
—佐藤信淵の「家は」を中
心に

戸沢行夫

哲学(三田哲学
会)五九

佐藤信淵の思想史的考察・序
論

塚谷晃弘

国学院経済学
二〇—四

近世洋学の萌芽と封建体制

中谷一正

ヒストリア六一

司馬江漢小論

塚谷晃弘

国学院経済学
二〇—三

三浦梅園の世界観

柳沢南

倫理学年報二〇

三浦梅園と明清の自然科学

高橋正和

日本中国学会報
二四

佐賀の蘭学—二—

宮原賢吾

図書館学二一

西欧法文化受容の思想的背景
—四—

水田義雄

法律のひろば
二五—六

平田篤胤の医学

服部敏良

皇学館論叢
五—四

藩校における折衷学派の教育活動

鈴木博雄

東京教育大学教育学部紀要一八

松平春嶽公と平田学

伴五十嗣郎

神道史研究
二〇—一

近世封建制度下の藩校における武道教育の研究

棚田真輔

人文論集(神戸商大)八—二

林良斎と近藤篤山との論学書について

岡田武彦

西南学院大学文学部論集一三—一

加賀唐明倫堂の学制改革
—二—

小松周吉

金沢大学教育学部紀要二—一

日本における儒教型理想主義の終焉—一・二—

松浦玲

思想
五七一・五七七
法律のひろば
二五—八

北関東農村における寺子屋の性格とその歴史的背景

利根啓三郎

日本歴史二九七

「東洋道徳・西洋芸術」について

水田義雄

東洋研究二六

中井竹山について

大月明

人文研究(大阪市大)二三—一〇

藤田東湖の回天詩史に付て

和田正俊

高崎経済大学論集一四—四

大阪町人の蘭学と適塾

芝哲夫

経済人二六—八

頼千蔵の江戸生活

頼桃三郎

文学四〇—六

天保期のある少年と少女「橘守部の子女」の教養形成過程の研究—七—

高井浩

群馬大学教育学部紀要二—一

吉田松陰の七生説と宋学の理気論

山崎道夫

東洋研究二六

細井平洲の人と思想—三—

鬼頭有一

東洋研究二六

横井水楠の学問とその内政外交論

荒川久寿男

大倉山論集一〇

細井平洲の教学思想

長沼正巳

岐阜大学教育学部研究報告(人文科学)二—一

山口藩独逸学校の成立について

寄田啓夫

広島大学教育学部紀要二—〇

土着の思想家尊徳

奈良本辰也

理想四七〇

吉田家旧蔵本「妙貞問答」解説補遺—「耶蘇教写経」再考—さんたまりあのおひしよ

海老沢有道

史苑三二—二

二宮尊徳の思想—上—

橋本敏雄

明治学院論叢
一九八

キリシタン村落根獅子の宗教と社会構造

牧正美

哲学年報(九大)
三一

日本の近代化と徳川合理思想—「徳川合理思想の系譜」以後

源了円

自由一五—一

「納戸神」信仰の社会的考察—

牧正美

史学四四—四

大塩中斎と佐藤一斎

田中佩刀

東京支那学報
一六

キリシタン宣教師の軍事計画—下—

高瀬弘一郎

史学四四—四

仮名草子におけるキリシタン思想の一考察

鈴木 亨

島根大学文理学部紀要五

近世仏教の研究（共同研究）

千葉 乗隆

竜谷大学仏教文化研究所紀要一一

近世真言宗の庶民教化―来世信仰

上田 靈城

密教文化九九

白隠禅における人間形成の思想

真流 堅一

熊本大学教育学部紀要（2人文科学）二一

瑩山禅師の坐禅観

木下 純一

宗学研究一四

瑩山禅師の「平常心是道」

東 隆 真

宗学研究一四

近世の唯識教学―基弁の「大乘五種姓玄論」を中心として

山崎 慶 輝

竜谷大学論集三九八

新井白石と南部戒和上相論について

平岡 定 海

大手前女子大学論集六

薩摩藩の真宗禁制と本願寺の動向

星野 元 貞

真宗研究一七

江戸中期における念仏論争

福原 隆 喜

浄土宗学研究六

上田秋成と仏教―初期作品に現われた仏教観

鷺山 樹 心

花園大学紀要三

近世の神宮式年遷宮

三木 正 太 郎

神道史研究二〇―五・六

鎌倉に於ける吉川惟足

白井 永 二

国学院雑誌七三―四

垂加神道と復古神道との関係

三木 正 太 郎

皇学館大学紀要一〇

霊能真柱の研究―下―

小林 健 三

神道学七三

江戸時代後期における思想―東照大権現崇拜思想の変質

石毛 忠

文化史学二七

幕末における民衆宗教運動の歴史的性格

小沢 浩

歴史学研究三八四

―川手文治郎の思想形成と金光教の成立をめぐって

幕末の民衆運動

衣笠 安 喜

日本史研究一二八

西鶴の描いた武家の義理

市川 通 雄

文学研究（日本文学研究会）三五

西鶴の正風意識―飛牀との関りを中心に

乾 裕 幸

国語国文四一―二

契沖の足跡と万葉集

久松 潜 一

上代文学三一

雨月物語に描かれた人間

大輪 靖 宏

日本研究一

黄表紙と黄表紙趣味

森 銑 三

文学四〇―一六

「排蘆小船」は宝暦八・九年の作か

尾崎 知 光

文学・語学六五

かぶき者―その行動と論理

北島 正 元

人文学報（都立大）八九

近世仏教説話の一考察

上田 靈 城

印度学二一一

近世初期の俊世思想

鈴木 亨

島根大学文理学部紀要六

武家諸法度の性格について

塚本 学

日本歴史二九〇

近世初期における武家政治必然史論―鷺峰と素行と白石

小沢 栄 一

日本歴史二九六

いわゆる「外人のみた鎖国」をめぐって―エンゲルベルト・ケンペルの鎖国の是認に対する疑問と推理

宮本 英 三 郎

横浜商大論集五―二

山片蟠桃と海保青陵の経済思想について
井上 実 史泉

二宮尊徳の経済思想
加藤 瑛子 経済論集(大東文化大)一七

南関東における「ええじゃな
いか」
青木 美智男 歴史学研究 三八五

尊攘派小論(吉田松陰・久坂
玄瑞の思想と行動を中心に)
八木 公夫 竜谷史壇六五

幕末における公議政体論の展
開―二完―
内藤 俊彦 法学(東北大) 三五―四

下層民の存在形態とその解放
の論理
東 義和 立命館文学 三〇九

柏原祐泉著「近世庶民仏教の
研究」
小林 実玄 仏教学研究二八

有坂隆道編「日本洋学史の研
究Ⅱ」
沼田 次郎 史林五五―六

庄司吉之助著「世直し一揆の
研究」
青木 美智男 歴史評論二六〇

平田篤胤先生百年記念伊那谷
平田学史科展観目録(昭和一
八年一月四日下伊那教育会
発行)

神道宗教六八

近代

日本の近代化と民衆
田中正巳 立正大人文学科
研究所年報九

明治武士道論
村尾 次郎 大倉山論叢一〇

大正デモクラシーと道德教育
富田 義雄 立正女子大研究
紀要四

非国家主義的農本主義思想に
ついて
栗原 藤七郎 農村研究 三三・三四

日本近代形成論―服部之総と
国際的契機の関連について
金子 貞吉 中央大経済研究
所年報二

日本における哲学事始
宮川 透 比較文化 一八―三・四

明治期における西洋哲学の受
容と展開―8―
峰 島 旭雄 早稲田商学 二二九

―9―
市川 慎一 比較文学年誌八 二二二

デイドロに映じた―日本―百
科全書―の項目―日本人の哲
学―をめぐって
小泉 仰 哲学五九

「知説」における西周の人間
性論
湯川 敬弘 比較文化研究 一二

哲学者西周及びその学問
ひろた まさき 思想五八〇

福沢諭吉における第三の転回
多田 顕 千葉大教養部研
究報告四

福沢諭吉と南方熊楠
笠井 清 日本歴史二九二

加藤弘之の初期における自由
主義財政経済思想
大淵 利男 法学紀要(日大) 一四

志賀重昂―人と思想
定平 元四良 関西学院大社会
学部紀要二四

浮田和民博士の国家論―4―
池田 美代二 早稲田大教育学
部学術研究二〇

大隈重信と蘭学者大庭雪齋
細野 浩二 早稲田大史紀要 五

河上肇と現代
住谷 一彦 科学と思想四

学制百年

鹿野政直

教育二二一一三

明治期のキリスト教主義女学校に関する一考察

大滝晶子

教育学雑誌六

女子教育観の史的性格

坂谷隆子

東京家政大研究紀要一二

明治前期におけるキリスト教主義女学校の教育について

萩原俊彦

文化史学二八

「教育令」の成立に関する一考察

森川輝紀

日本歴史二八八

明治期近代外国教育思想の受容

西脇英逸

大阪教育大紀要二〇

仏教と教育との関係―沢柳政太郎編

齋藤昭俊

智山学報一九

高楠順次郎における仏教教育

〃

〃 二〇

大正期芸術教育運動の一考察―山本鼎と自由西教育運動について

上野悟道

教育学研究三九―一

大正期の道德教育とその思想的背景

小村上正一

京都教育大教育研究所報一八

キリスト教解禁への道程

石川卓美

梅花女学院大紀要七

大教宣布運動と祭神論争

中島三千男

日本史研究三六

日本の近代化と宗教

小笠原真

奈良教育大紀要二一―一

明治時代のピューリタニズム観

今井宏

東京女子大比較文化研究所紀要三二

キリスト教問題をめぐる外交状況―2―

広瀬靖子

日本歴史二九一

内村鑑三の未公開書簡

武田清子

国際基督教大学報六

相馬黒光における他力道への傾斜

〃

一六

内村鑑三

藤谷俊雄

前衛三四〇

若き内村鑑三の思想的背景

渋谷浩

明治学院大キリスト教研究所紀要五

内村鑑三と大正デモクラシー

〃

明治学院論叢一八七

背教の論理―有島武郎の場合

笠原芳光

キリスト教社会問題研究二〇

魚住影雄の思想と信仰

平井亮一

短期大学研究紀要一一

比較宗教学くの一視点―梁川の「見神」と独歩の「見死」における

松本皓一

宗教研究四六―一

明治末期の教育事業と新仏教徒同志会

久木幸男

横浜国立大教育紀要一二

農民系宗教の歴史と構造―日本資本主義と天理教団―9・10―

阿部吉夫

経済論集(北海学園大)二〇―一

つらぬかれた日本の兵役拒否―灯台社の思想と実践

稲垣真美

世界三一七

明治思想史上の「浪漫主義」―明治二〇年代の高山樗牛

渡辺和靖

文芸研究七一

没理想論争をめぐって

久保田芳太郎

比較文学年誌一一

夏目漱石における自己の問題

野崎守英

実存主義六〇

夏目漱石と「明治の精神」

伊豆利彦

民主文学八三

漱石と文明―2―

越智治雄

国文学
一七―一四

漱石における「天」と「経済」

北山正迪

近代日本文学と仏教との接点

見理文周

大正期芸術教育運動の源流―

石川啄木の教育思想とその展

開

上野浩道

近代詩における宗教意識の問

題―「道程」から「春と修羅」

樋口一葉と宗教

分銅惇作

明治期の知識人の肖像

寺園司

岡倉天心論

山田博光

日本人の罪の意識―島崎藤村

の「破戒」をめぐって

和魂漢才について「魂」の文

学と「才」の文学

木下尚江「回生」即「転向」

の相

分離と結合―芥川の子精神構造

について

明治維新と愛国心―中―

藤井和義

日本の近代化と資本主義化と

の関連

日本の経済近代化と伝統

久米収

堀江保蔵

国語と国文学
四九―一二

実存主義六〇

印度学仏教学研究
二一―一

花園大研究紀要
三

語文研究三三三
帝塚山学院大研
究論集五

西郷隆盛の思想について

増村宏

鹿児島大法文学
部紀要七

集権化過程における政治指導

関口栄一

―木戸孝允論のための覚書

小林忠正

「泰西勸善訓蒙」にあらわれ

河野義祐

た法と家族の倫理

岩井肇

旧民法婚姻規定における一八

大淵利男

六五年イタリヤ民法の影響と

科学と思想五

日本伝統との相剋

村上陽一郎

時事新報と福井諭吉

宗友重孝

田口卯吉の自由主義経済学と

天野郁夫

財政思想

水田義雄

幕末から明治への科学の論理

〃

生物進化論と社会思想

〃

体制指導者の選択―明治維新

〃

観の視点整理

〃

近代日本における外国法の受

〃

容と法学教育の成立

〃

西欧法文化受容の思想的背景

〃

―2―

〃

―3―

〃

小野梓著「国憲汎論」の上表

文について

明治初年の土佐派自由民権

「立志社」と「立志学舎」

の教育

影山昇

愛媛大教育学部
紀要一八

明治憲法発布と世論―大阪の

新聞論調を中心に

後藤孝夫

歴史評論二六五

早稲田大史紀要
五

明治天皇制確立期の維新論—
平民主義の維新観とその転回

田中 彰 現代と思想一〇

日本帝国主義成立期の天皇制
思想—尾崎行雄を中心として

栄 沢 幸 二 信州大教養部紀要六

幸徳秋水における「反逆」の
研究

山 県 三千雄 人文論集(早大)九

片山潜における労働運動論の
展開

池 田 信 社会科学論集(埼玉大)二九

地方における「平民社」運動
—2—

吉 実 誠 一 金沢経済大論集六一—

山川均の社会主義政党観につ
いて

奥 田 八 二 社会科学論集(九大)一二

大山郁夫

梅 田 欽 治 前衛三四七

堺利彦

犬 丸 義 一 〃三四五

救世軍の社会事業と山室軍平

三 吉 明 北星論集九

日本人権史上の婦人像—山室
機恵子の場合

高 道 基 神戸女学院大論集一八一—三

明治・大正期における女工意
識の一考察

竹 下 景 子 史論二五

—「忠」「孝」分析を基軸
として

部落の歴史—20—水平社の前
夜

原 田 伴 彦 部落角放三〇

三・一万歳事件と日本組合教
会

飯 沼 二 郎 人文学報三四

北一輝の辛亥革命電文集につ
いて

西 尾 陽 太 郎 史淵一〇七

北一輝における「君主制」

松 本 清 張 世界三二六

小林 文 男 アジア経済一三一—二

暉 峻 康 人 史潮一〇九

井 下 田 純 部落二四—九

筒 井 清 志 季刊社会思想二—三

鈴 木 正 科学と思想五

鹿 野 政 直 日本史研究一二八

発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳燭をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石田一良

日本思想史研究 第七号

昭和五十年三月 日 印刷

昭和五十年三月 日 発行

編集代表者 石田一良

仙台市原町四丁目九ノ十四

印刷所 合名 共同印刷所

仙台市川内

発行所 東北大学文学部

日本思想史学研究室